

オホーツクの個性を活かした交流のまちづくり

オホーツクの豊かな農林水産資源は、私たちに多くの恵みをもたらしております。この地域が有している様々な資源や空港・港湾などの交通基盤や情報基盤を最大限に活用して、人・モノ・情報が活発に行き交い、さらにノウハウや知恵の交流が進むまちづくりに取り組んでまいります。

オホーツクプログラムにつきましては、平成20年から北海道水産研究所との共同研究により実施している流水海域の生態系調査において、本年、アイスアルジーの採取に成功し、地球温暖化による水産資源への影響など、今後の研究成果に期待しております。

引き続き、沿岸域の流水分布、海洋環境調査・観測などの基礎データを蓄積するとともに、北方圏国際シンポジウムでの研究発表などを通じて、水産振興と海洋環境保全に寄与してまいります。

国際交流につきましては、姉妹都市をはじめ、アジアからの留学生受入れなど、市民を中心とした活発な交流が進められております。本年は、ニューポート市と姉妹都市の提携四十五周年を、また、コルサコフ市、フェアバンクス市とは提携二十周年を迎えます。

これを記念する事業として親善訪問団を派遣するほか、港まつり、流水まつり期間中に訪問団を受け入れるなど、相互の親善交流をより一層深めてまいります。

北方圏国際シンポジウムにつきましては、いち早く流水・氷海をテーマとして地球環境問題に取り組み、四半世紀以上に及ぶ息の長い活動により貴重な研究と提言が続けられ、国内外から高く評価されております。

さらに、近年ではサハリン油田開発のほか、森・里・海の連環による環境と地域の産業や暮らしの分野、実践的な理科教育としての野外学習の研究発表など、市民、中学・高校生や外国人留學生の積極的な参加による新たな広がりを見せており、今後とも、研究発表・技術交流の場のほか、研究者と市民が友好を深める国際交流の場として、引き続き支援してまいります。



▲シンポジウム

地域間交流・定住・二地域居住につきましては、札幌市南区子ども会との交歓研修会など、他都市

の児童との交流活動を図るとともに、引き続き「交流拡大プロジェクト」として、移住促進事業およびスポーツ合宿誘致事業に取り組み、交流人口の増加に努めてまいります。

移住促進事業の「お試し暮らし」につきましては、受入実績が年々拡大しておりますが、関係部署のより緊密な相互支援体制の構築により、「体験」から「移住」につながる取組を進めてまいります。

また、スポーツ合宿誘致につきましましては、体育協会などスポーツ団体と連携し、昨年まで実施した団体に加え、新たな団体の誘致に努めるとともに、市民全体がおもてなしの心を醸成し、何度も紋別を訪れてもらえるような持続的交流を図ることにより、地域のスポーツ振興はもとより、空路利用や宿泊等に伴う経済効果による地域の活性化を目指してまいります。



▲大学陸上部合宿

空港の利用促進につきましては、近年、航空会社の不採算路線の見直しが顕著なことから、路線存続には本年の搭乗率が大変重要との危機感に立ち、市民を対象とした団体割引制度の拡充のほか、AN

Aや首都圏の旅行業者と連携し、地域の魅力ある素材を活用した体験ツアーの造成や旅客ニーズを踏まえた効果的なPRなど、様々な手法を駆使し、圏域市町村と一体となり、搭乗率60%確保を目指してまいります。

港湾整備につきましては、港内の安全な荷役作業および船舶航行と係留確保のため、引き続き、本港地区の北波除堤および北防波堤、港町地区第2船溜西岸壁の改良工事を進めてまいります。

なお、国の「選択と集中」により、港湾整備予算の確保が大変難しい状況にあります。紋別港の整備計画に支障をきたさぬよう、整備予算の確保を国に要請してまいります。

道路整備につきましては、高規格幹線道路旭川・紋別自動車道が「上川天幕・浮島間」の供用開始により、道央圏と紋別が一層近づく便利になりました。しかしながら、遠軽から紋別までの区間については、未だに「調査区間」の位置づけであります。

この道路は、医療、観光、産業振興など、住民の安心安全な生活や地域経済の活性化を図る上で大変重要な役割を担うものであり、今後とも、国や関係機関に対して整備促進を強く要請してまいります。

また、紋別湧別間の防雪事業につきましましては、本年、植樹帯造成などに着手するほか、地域沿線の土地取得を進める予定となっておりますが、一日も早い完成に向けて、引き続き国に要請してまいります。

このほか、道道紋別丸瀬布線につきましては、道路利用者の利便性向上と交通量増加に伴う安全確保のため、曲線部、幅員狭隘部の改良や休憩便益施設などの整備を北海道に要請してまいります。

さらに、「みち」をテーマに広域的な美しい景観づくりや魅力ある観光空間づくりを目指す「シーニックバイウェイ」につきましては、民間団体や国などの関係機関とともに推進体制を構築してまいります。

バス輸送の充実につきましては、紋別市地域公共交通活性化協議会が平成21年から市内循環バスの実証運行を実施してまいりましたが、利用者のニーズに合った路線・ダイヤの再編により、利便性と採算性の向上が図られ、また、新たな利用者の増加も見られますことから、本年4月より本格運行に移行する予定であります。

また、引き続きバス待合い環境

市民が行動、参画するまちづくり

私は、昨年の元職員の横領事件により、市政に対する信頼が著しく失われたことに対し、行政経営のトップとして、その責任を重く受け止めております。

住民の信頼回復を基本として、組織マネジメントを抜本的に改革し、行政運営の透明性や業務の有効性・効率性を高め、法令を遵守しながら、職員意識の改革を図り、市を取り巻く様々な課題や危機に

の改善に努めるほか、郊外路線の利用状況調査を実施し、課題整理を行うとともに、一部路線に予約制バスの実証運行を実施するなど、さらに市民が利用しやすいバス路線の維持確保に向け、取り組んでまいります。

情報・通信につきましては、本年7月の地上デジタル放送への完全移行に向け、受信が不可能な地域につきましては、既に必要な対策を講じたところでありますが、引き続き、高齢者や低所得者などの未対応の世帯に対し、国とともに相談窓口と支援制度などの周知徹底を図ってまいります。

また、本年10月から戸籍電算システムを稼動し、窓口サービスの向上とセキュリティ体制の強化を図ってまいります。

このほか、住民基本台帳法の改正に伴う外国人登録につきましては、平成24年7月稼動に向けたシステム改修に着手してまいります。

対応可能な組織づくりと、職員自らが取り組む内部改革に引き続き努めてまいります。

また、地域主権の進展により、地域の個性と自らの創意工夫、努力による行政運営が求められております。このことから、今まで以上に市民ニーズの把握に努め、行政の透明性の確保や事務・事業の評価分析を行うてまいります。

市民との協働につきましては、

引き続き市長への手紙や市長室開放などにより、市政への意見やアイデアを直接お聴きし市政に反映するよう努めるとともに、広報もんべつや4月1日リニューアルオープンしたホームページなどにより、さらに分かりやすい市政情報の提供に努めてまいります。



▲市長室開放

また、各町内会が自主的に取り組んでいる防犯・防災対策に引き続き支援するなど、地域コミュニティ活動の促進を図ってまいります。

また、コンビニ収納の本格実施やクレジットカード収納の導入に向けた準備作業を進めるなど、市民が納税しやすい環境整備を行うとともに、徴収事務を強化し、市税等の収納率向上に取り組むほか、市営住宅使用料など、市の保有する私債権につきましては、管理条例に基づき適切な事務の執行に努めてまいります。

学校給食調理場の統廃合と業務の民間委託化につきましては、教育委員会とともに引き続き職員組合との話し合いを重ね、合意形成がなされるよう進めてまいります。職員教育と人材育成につきましては、早い時期に紋別市人材育成基本方針を策定し、地域主権時代の要請に応える市職員として、自己啓発に意欲的で、地域を支える気概をもった行政のプロフェッショナルの育成と教育に取り組んでまいります。

広域行政につきましては、医療ごみ処理、消防などをはじめ、交通、観光、企業誘致など、広域的な取組が地域全体にとつて効果的・効率的な分野につきまして、引き続き積極的な取組を行い、西紋・遠紋地域発展の中心的役割を果たしてまいります。

これら広域取組の一環として、本年4月から西紋別地区4町村の事務委託を受け、本市窓口においてパスポート申請交付事務を処理してまいります。